

# Book Review

## 歯科医院でみる 口腔がん早期発見ガイドブック

白砂兼光 編著



Reviewer

戸塚靖則 Yasunori Totsuka

(北海道大学大学院歯学研究科 口腔病態学講座  
口腔顎顔面外科学分野 教授)

A4判, 102頁  
定価 5,880円  
(本体 5,600円 + 税 5%)  
医歯薬出版刊



『歯科医院でみる口腔がん早期発見ガイドブック』は約40年間にわたって口腔がんの治療と基礎的研究に専念されてきた白砂兼光先生の集大成、あるいは悲願の出版というべきものである。

先生は、これまでにCancerやCancer Researchなど、超一流のがん専門誌に数多くの研究成果を発表され、その功績により米国がん学会会員に推薦されている。また、腫瘍関連学会の理事として、わが国の口腔がん治療をリードし、治療成績の向上に寄与されてきた。

そのなかで、口腔がん治療従事者の一人として、「わが国では、口腔がんに対する国民の認識が低く、かなり進行してから大学病院などの専門病院を受診する患者が少なくない」とこと、「歯科医師のなかにも口腔がんに注意や関心を払わない者がいる」ことに心を痛めていた。本書は、「口腔がんの早期発見のためには、常時口腔内を診察している歯科医師や歯科衛生士の役割がきわめて重要である」との、先生

の強い信念のもとに、出版されたものである。

本書は、長年にわたって書籍の編集や学術雑誌の編集長をつとめられている白砂先生の企画・編集で申し分のないガイド本に仕上がっており、口腔がんを含む口腔粘膜疾患の診断に有用な診察法や診断ポイントがわかりやすく述べられている。また、紛らわしい学術用語には簡単な解説がつけられており、いちいち医学辞典や教科書を引くことなしに、読み通せる構成になっている。

実際の診療では、口腔がんや口腔粘膜疾患の診断にあたって視診の占める役割が少なくない。本書においては、色の変化や形の変化など、症状別に口腔粘膜疾患の特徴が示されているので、実際の症例に遭遇したときに、症状・所見から容易に診断を進めることができるだろう。その一方で、疾患の病態を系統的に述べることも怠らない、理想的な構成になっている。特に、疾患ごとに豊富な症例写真が掲載されており、ていねいな解説と合わせて、

疾患が理解しやすいものになっている。口腔粘膜疾患の診察の手順や、がんの簡易検査法も記載されており、口腔がん検診にも利用できる。

また、口腔がんに対する理解度を高めるため、腫瘍の特性や治療法の紹介、さらに最近関心が高まってきたがん治療患者の口腔ケアについても簡潔にまとめられ、少ない頁数で内容の豊富なガイド本になっている。症例写真や解説図も豊富で、患者への説明にも活用できるかもしれない。

本書は、その対象として一般の歯科医師や歯科衛生士を念頭に置いて書かれているが、口腔がんを含む口腔粘膜疾患全体を網羅しており、口腔を診察する機会が少ない内科医や皮膚科医、耳鼻咽喉科医、ならびに関連する看護師にとっても、一読する価値のあるガイド本だと思う。

本書が、多くの歯科医師、歯科衛生士をはじめ、医療関係者の口腔がんに対する認識を高め、口腔がんの早期発見につながることを期待し、筆者の書評としたい。